

【編集後記】「くわばらくわばら」

4月始めに宮崎県の高校のグラウンドでサッカーの練習試合中に落雷があり、高校生18人が病院に搬送されるという事故が起きた。屋外での作業やスポーツ活動などの最中に落雷により命を落としたり、けがをする事例は、これまでもたびたび起きている。雷鳴が聞こえたり稲妻を見たら直ちに堅固な建物や車の中に避難することが肝要だ。避難場所が見当たらない場合は電柱や鉄塔など高い物体の頂点を45度以上の角度で見上げる範囲でその物体から4メートル以上離れて低い姿勢をとることで危険度を下げることができるという。しかし、ゴルフ場で経験したことだが雷鳴や風雨がなくても突然、近くに雷が落ちることもあるので油断はできない。また、金属類を身につけていると危ないから腕時計やベルトは外せ、という話もよく聞いたが、落雷自体を防止できるわけではないという。今は、気象庁が1kmメッシュで雷の状況を解析し、1時間先までの予測を提供してくれるサイトがある。正しい知識と対策で身を守りたい。

地域防災に関する総合情報誌 **地域防災** 2024年6月号（通巻56号）

- 発行日 令和6年6月15日
- 発行所 一般財団法人日本防火・防災協会
- 編集発行人 高尾 和彦
- 〒105-0021 東京都港区東新橋1-1-19（ヤクルトビル内）
- TEL 03 (6280) 6904 FAX 03 (6205) 7851
- URL <https://www.n-bouka.or.jp>
- 編集協力 近代消防社